

山口情報芸術センター [YCAM] 成果公演

YCAM InterLab + 安藤洋子

共同研究開発プロジェクト Reactor for Awareness in Motion (RAM) 2014-15 成果公演

「Dividual Plays (ディヴィジュアル・プレイズ)

— 身体の無意識とシステムとの対話 —

2015年1月24日(土) 19:00開演・25日(日) 14:00開演 (各回30分前開場)

山口情報芸術センター [YCAM] スタジオA

デジタルとフィジカルが生み出す圧倒的なダンス—

— 線で活躍するダンサー・クリエイター・研究者による2日限りのダンスの世界 —

山口情報芸術センター [YCAM] では、YCAM InterLabを中心に、ダンサーの安藤洋子とテクノロジーの専門家とのコラボレーションによる新作ダンス作品「Dividual Plays (ディヴィジュアル・プレイズ) — 身体の無意識とシステムとの対話」を発表します。本公演は、YCAMとダンサーの安藤洋子や国内外のソフトウェア開発者らとともに2010年から継続的に取り組んでいる、テクノロジーを通じて身体の可能性を拡張するプロジェクト「Reactor for Awareness in Motion (RAM=ラム)」の成果を公演として発表するものです。

RAMでは、ダンサーの周りの環境をプログラミングでデザインすることで、リアルタイムにダンスを引き出すシステムを開発してきました。本作ではそのシステムに加えて、「箱庭」と呼ばれる小さな実験室にさまざまな装置や自然物が置かれ、ダンサーの動きに連動して物理的な変化が起こります。さらにその変化が、ステージやダンサーにフィードバックされ、また箱庭へと返ります。ダンサー、ステージ、箱庭が大きなシステムとして連鎖するダイナミックな作品にご期待ください。



潜在制作中の様子 (2014年8月)

関連プログラム

ポストトーク

日時：1月24日(土)、25日(日) 終演後

会場：山口情報芸術センター [YCAM] スタジオA
YCAM InterLab、安藤洋子 (ダンサー)、田根剛 (建築家)、
筧康明 (インタラクティブ研究者・デザイナー)

ゲストレクチャー「超身体・脱身体・融身体」

日時：1月25日(日) 16:00- (予定)

会場：山口情報芸術センター [YCAM] スタジオA

講師：稲見昌彦 (慶応義塾大学大学院メディアデザイン研究科教授)

この機会に、取材や記事掲載にご協力いただけますよう、よろしくお願い申し上げます。

お問い合わせ 山口情報芸術センター [YCAM]

TEL: 083-901-2222 FAX: 083-901-2216 メールアドレス: press@ycam.jp

〒753-0075 山口県山口市中国町7-7 <http://www.ycam.jp>

取材に関するお問い合わせ、プレス用写真等ご入用の方は上記までご連絡ください。



ダンスと世界を結ぶ方法—Reactor for Awareness in Motion (RAM) とは



滞在制作中の様子 (2014年/8月)

2010年からYCAMが展開している研究開発プロジェクト「Reactor for Awareness in Motion (RAM=ラム)」はダンサーの知覚と身体に働きかけるテクノロジーの研究を通して、ダンスの創作や教育について探求していくプロジェクトです。

RAMでは、ダンスをダンサーと環境とのインタラクションとして捉え、ダンサーは環境から情報を選び取り、それに反応することで動きを生み出します。自分の身体とその周りの環境のイメージを豊かにし、そのイメージを実際の身体の動きに連動させることで、新たなダンスの可能性を導き出せるのです。

研究開発として、現在までに、ダンサーの動きをリアルタイムに解析する比較的安価で手作りができるモーションキャプチャーシステム「MOTIONER (モーションナー)」と、ダンサーの想像力を刺激する仮想環境を自由にデザインするためのツールキット「RAM Dance Toolkit (ラム・ダンス・ツールキット)」を開発。全て無料のオープンソースで公開しています。

さらに、これらのツールを使って、ダンサーとプログラマーがクリエイションをおこなうワークショップは、国内外で高い評価を得ています。また、テクノロジーを通じて身体の可能性を拡張する研究対象は、ゲームやスポーツなどダンス以外の分野にも広がっています。

■ YCAM InterLab

YCAMに附属する研究開発チーム。主にYCAMの委嘱作品であるインスタレーション作品やパフォーマンス作品などの開発をおこなっている。また、メディアテクノロジーを芸術表現へ応用するための研究や、国内外から研究者を招聘する共同研究などにも積極的に取り組んでいる。

■ 安藤洋子

1989年、舞踊家の木佐貫邦子に出会い、本格的にダンスを始める。野田秀樹の作・演出によるNODA.MAP公演、坂本龍一「LIFE」などに出演。2001年には、ウィリアム・フォーサイスに認められ、フランクフルトバレエ団に入団。2005年以降、ザ・フォーサイス・カンパニーの中心的存在として活躍。日本においても、自らの企画プロジェクトや外部カンパニーへのゲスト出演、振付けなど精力的に活動している。2011年には、YCAMとの共同開発によるインスタレーション「Reacting Space for Dividual Behavior」を発表。

コラボレーター

■ 田根剛

1979年、東京生まれ。2006年、パリにて建築設計事務所・DGTをダン・ドレル、リナ・ゴットツメと共に設立。現在建設中の「エストニア国立博物館」(2016年完成予定)をはじめ世界各国でプロジェクトが進行中。2012年には新国立競技場国際設計競技で「古墳スタジアム」がファイナリストに選ばれ国際的な注目を集めた。ミラノ・デザインアワード2部門受賞(2014)など多数受賞。

研究開発

■ 大西義人

アーティスト。1986年生まれ。プログラミングを用いた精緻な絵画作品や、プログラム/電子回路/生物を素材とした彫刻作品などの制作。映像作家、デザイナー、ソフト/ハードウェアシステム開発者として、多くの作家のプロジェクトに参加している。

■ ひつじ

プログラマー。1989年生まれ、多摩美術大学情報デザイン学科情報芸術コース(現メディア芸術コース)卒業。在学中はシステムや構造をテーマにした作品を制作、卒業後は映像制作や商業インストール・デジタルサイネージ等の開発が主な活動。

■ 寛康明

インタラクティブメディア研究者・デザイナー、慶應義塾大学環境情報学部准教授。博士(学際情報学)。人間の五感や物理素材の特性とデジタル情報を掛け合わせて、身体、道具、コミュニケーションを拡張するインタラクティブメディアを開発する。ACM SIGGRAPH、Ars Electronica Festivalなどで横断的に研究成果や作品を発表し、平成26年度科学技術分野の文部科学大臣表彰若手科学者賞受賞。触感表現の普及活動TECHTILEを共同で立ち上げたり、アートユニットplaplastとしても活躍。

■ 小尻健太

ローザンヌバレエコンクールにてプロ・スカラシップ賞受賞。モナコ公国モンテカルロバレエ団、ネザールランド・ダンス・シアターに所属。キリアンスタイルの境地にいるダンサーと高い評価を得る。'10年ソロ活動開始。自作自演作品「のちのおもひに」をオランダコルゾ劇場、出雲大社にて公演。シルヴィ・ギエムイブニング、Noism1などにゲスト出演。振付作品「Inscription」(Noism2委託)、「Swell」(ベルギー王立バレエ学校委託)等。

■ evala

1976年生まれ。音楽家、サウンドアーティスト。port主宰、ATAK所属。先鋭的な電子音楽作品を発表し、国内外の音楽祭や美術展にてインスタレーションやコンサートの上演、また公共空間、舞台、映画、広告メディアにおいて立体音響システムや先端テクノロジーを用いた多彩なサウンドデザインや楽曲提供を行なう。

■ 神田竜

アーティスト・プログラマー。Kezzardrix名義で国内外の様々なミュージシャンのライブビジュアルやMVを担当。2013年には映像メンバとして参加する「SjQ++」でArs Electronica Award of Distinctionを受賞。現代美術、舞台や、インストール、デジタルサイネージやキャンペーン、iOSアプリ、webサイト等におけるインタラクティブな仕掛けのサポートプログラマーとしても活動をしている。

■ 川口ゆい

「ベルリンのベストダンサーの内の一人」(tanz誌)と呼ばれ、ベルリンを拠点に国際的に活動中。ドイツを代表するブレイクダンスチームFlying Stepsによる「Red Bull Flying Bach」オリジナルキャスト。作品はエコークラシック特別賞を受賞し世界中をツアー中。2010年、ソロ「アンドロポラロイド」でケルンタンツプライズを受賞。知覚研究者の渡邊淳司らと共に共同研究やワークショップも行う。2014年、映像作家・石橋義正とのコラボレーション作品「MatchAtria」を発表。

■ 笹本龍史

2006年に渡米。以降、ネーサン・トライス、山崎広太、ラリー・ケイグウィン、シェン・ウェイ等、ニューヨークを代表する数々の振付家の作品に出演。2011年、米・ダンスマガジンが選ぶ「観に行くべき25人のダンサー」に選出。翌年には、ニューヨーク・ダンス・パフォーマンスアワード・ベッシー賞より「傑出したパフォーマー」としてノミネートを受ける。現在山口県下松市在住。

開催概要

YCAM InterLab + 安藤洋子
共同研究開発プロジェクト Reactor for Awareness in Motion
(RAM) 2014-15成果公演

「Dividual Plays(ディヴィジュアル・プレイズ)」

一身体の無意識とシステムとの対話」

2015年1月24日(土) 19:00開演・25日(日) 14:00開演
(各回30分前開場)

山口情報芸術センター [YCAM] スタジオA

プロジェクト・ディレクション: YCAM InterLab
ダンスコンセプト・ディレクション: 安藤洋子 (ザ・フォーサイズ・カンパニー)

研究開発

プログラミング・デバイスデザイン: 大西義人 神田竜 ひつじ

研究開発コンサルティング: 筧康明 (慶應義塾大学)

ダンス: 川口ゆい 小尻健太 笹本龍史 (METHOD B)

スペシャル・コラボレーター

空間構成: 田根剛 (DORELL.GHOTMEH.TANE / ARCHITECTS)

音楽・サウンドプログラミング: evala (port, ATAK)

特設ウェブサイト:

<http://ram.ycam.jp/>

主催: 公益財団法人山口市文化振興財団
後援: 山口市、山口市教育委員会、大阪ドイツ文化センター
平成26年度文化庁劇場・音楽堂等活性化事業
本事業は宝くじの助成を受けて実施しています。
協賛: HI/EIDO
共同開発: YCAM InterLab
企画制作: 山口情報芸術センター [YCAM]

研究開発プロジェクト Reactor for Awareness in Motion (RAM)は、
2014年度グッドデザイン賞を受賞しました。

 **GOOD DESIGN AWARD 2014**

関連プログラム

ポストトーク

日時: 1月24日(土)、25日(日) 終演後
会場: 山口情報芸術センター [YCAM] スタジオA
YCAM InterLab、安藤洋子(ダンサー)、田根剛(建築家)、
筧康明(インタラクティブ研究者・デザイナー)

ゲストレクチャー「超身体・脱身体・融身体」

日時: 1月25日(日) 16:00- (予定)
会場: 山口情報芸術センター [YCAM] スタジオA
講師: 稲見昌彦 (慶應義塾大学大学院メディアデザイン研究科教授)

チケット情報

受付発売日: 11月29日(土)

料金: [全席自由席]

前売 一般2,500円

any会員・特別割引2,000円

25歳以下1,800円

当日 3,000円 ※当日は各種割引対象外

※特別割引: シニア(65歳以上)、障がい者及び同行の介護者1名が対象

※未就学児入場不可

電話/窓口:

山口市文化振興財団チケットインフォメーション

083-920-6111

10:00~19:00 ※火曜休館、祝日の場合は翌日

インターネット:

www.ycfcp.or.jp

24時間受付 ※要事前登録

セブン-イレブン店頭:

セブンコード034-682

託児サービス:

有料。1月17日(土)までに、チケットインフォメーションまで
お申し込みください。

車椅子・補聴システムのご案内

事前にお問合せください。

映像展示

様々な分野のクリエイター、研究者がRAMをハック。
ユニークなアイデアをご紹介します。

・アレクシー・アンドレ (Sony CSL)

・Team Twinkrun

・RAMサマーキャンプ2014最優秀チーム Team Speed